

Press Release 2024.12.11

東京オペラシティ アートギャラリー 2025 年度の展覧会ラインナップ

4月16日(水) - 6月22日(日) *60日間

LOVE ファッションー私を着がえるとき



左 トモ・コイズミ(小泉智貴) ジャンプスーツ 2020 年春夏 © 京都服飾文化研究財団 photo: 来田猛
中 松川朋奈《私が当時そうだったように、彼女も今は気づかないでしょう》 2024 年 個人蔵 © Tomona Matsukawa photo: 守屋友樹
右 コム・デ・ギャルソン(川久保玲) トップ、スカート 1997 年春夏 © 京都服飾文化研究財団 photo: 来田猛

私たちは長い歴史の中で、着ることにさまざまな情熱を傾けてきました。装いをめぐる憧れや熱狂、ときに葛藤や矛盾を伴って発露する私たちの内なる熱情や欲望を、本展ではファッションに対する「LOVE」ととらえ、その多様なかたちを考えます。着るという行為は「私」という存在の輪郭にも働きかけます。自己と他者の境界、老いやジェンダー、アイデンティティにかかわる苦悩や願望。そうした問題を抱えながら生きる現代の「私」のありようは単一で一貫性があるものではなく、「着がえる」ように日々変化しています。本展では、豪華な宮廷服から現代のデザインまで、京都服飾文化研究財団(KCI)が所蔵する衣服と装飾品にアート作品を加え、着ることから紡がれる「私」と「LOVE」の物語を見つめ直します。

キュレーター：福島直

同時開催：収蔵品展 083 愛について



内田あぐり《女人図-その一》1975 photo: 若林亮二

恋愛、情愛、慈愛、博愛、偏愛……愛のかたちはさまざまです。人の心を踊らせたり、高ぶらせたり、しみじみとさせたり、狂おしくかき乱したり、愛は人の精神や行動の本質と深く結びついているといえるでしょう。「人間とは」を問い続けた寺田小太郎氏のコレクションから、愛にまつわる作品を展示します。

キュレーター：野村しのぶ

同時開催：project N 98 楊博 Yang Bo



楊は、映画や音楽といったポップカルチャーとその受容に関わる距離感をテーマにしています。例えば洋楽を聞くとき、曲が作られたのは時代や距離、文化の離れたところであるにも関わらず、共感を覚え親密さを感じることがあります。楊はそれらを楽しんでいる現在の自分の立ち位置を確かめるように、既存のイメージと身近にある生活風景とを織り交ぜた独特の世界を描き出します。

キュレーター：瀧上華

Yang Bo 《flying (what is the spring like on jupiter and mars?)》2021

7月11日(金) - 10月2日(木) *71日間

難波田龍起 (タイトル未定)



《庭》1951 photo: 齊藤新

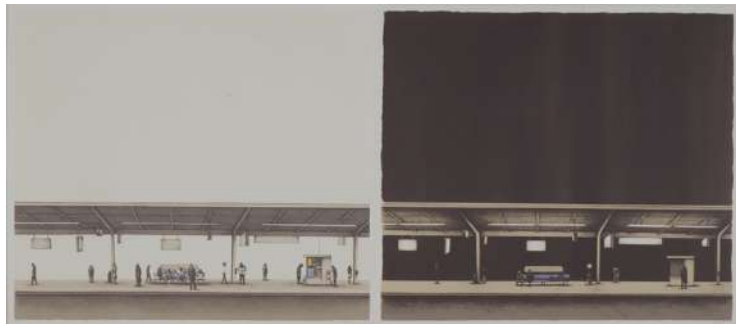


《群像》1989 photo: 齊藤新

難波田龍起(1905-1997)は、戦前から画業を始め、戦後はわが国の抽象絵画のパイオニアとして大きな足跡を残しました。海外から流入する動向を咀嚼しながらも、情報に流されず、また特定の運動に属することもなく、独自の道を探求したその活動は、多くの人々の尊敬をあつめてきました。当館収蔵品の寄贈者寺田小太郎氏が本格的な蒐集活動にのりだすきっかけとなったのも難波田の作品と人格との出会いでした。また寺田氏がコレクションを導くコンセプトのひとつである「東洋的抽象」を立てたのも、難波田の画業に触れたことが大きな機縁となっています。本展は難波田の生誕120周年を機に、当館収蔵品はもとより、全国の美術館の所蔵品、また個人蔵の作品などもまじえ、難波田の画業の全貌を20年振りに振り返り、今日的な視点から検証します。

キュレーター：福士理

同時開催：収蔵品展084 昼と夜



本展では、昼と夜の表現に着目し寺田コレクションを紹介します。風景を描く中で、時間や光の移ろいは常に重要なテーマです。同時に、見慣れたはずの風景が昼と夜でがらりと表情を変えることがあるように、昼と夜の二面性には、光と闇、日常と幻想、生と死など様々な意味を読み取ることができます。

キュレーター：瀧上華

相笠昌義《駅にて・昼も夜も……》1977 photo: 齊藤新

同時開催：project N 99 大久保紗也 Okubo Saya



《cursed woman》2024

縦横無尽に走る線は即興で描かれたものではありません。アクリル絵具の下地を塗ったキャンバスに、ドローイングで描いた線の通りにマスキングテープを貼った後、油絵具で塗りつぶします。テープを剥がすことで現れる線は、図であり地でもあります。ドローイングのモチーフはもっぱら他者の人体。上の層の油絵具と渾然となって、崩壊と創造を感じさせます。

キュレーター：野村しのぶ

10月24日(金) - 12月21日(日) *51日間

柚木沙弥郎 永遠のいま



(左)《木もれ陽》2019 松本市美術館蔵 画像提供: ギャラリーTOM (右)《型染布「2016」》(部分) 2016 日本民藝館蔵

2024年に101歳の生涯を閉じた染色家、柚木沙弥郎。型染の世界に新風を吹き込んだ柚木の作品は、自由でユーモラスな形態と、美しい色彩が心地よく調和しつつ生命力にあふれ、見る人を惹きつけてやみません。柳宗悦らによる民藝運動に出会い、芹沢銈介のもとで染色家としての道を歩みはじめた柚木は、さらに挿絵やコラージュなどジャンルの垣根を超え、創作世界を豊かに広げました。本展では75年にわたる活動を振り返るとともに、制作において縁のあった都市や地域をテーマに加え、柚木をめぐる旅へと誘います。身の回りの「もの」に対する愛着や、日々のくらしに見出した喜びから作品を紡ぎだす柚木の仕事は、変化の時代にこそ、大切に慈しみたい「いま」を私たちに示してくれます。民藝を出発点に、人生を愛し、楽しんだ柚木の創作活動の全貌を堪能できる展覧会です。

キュレーター：福島直

同時開催：収蔵品展 085 寺田コレクション ハイライト 前期



当館収蔵の寺田コレクションは、東京オペラシティ街区の地権者の一人として当ビルの共同事業者に名を連ねた寺田小太郎氏（1927-2018）の蒐集、寄贈によるものです。そのコレクションは、難波田龍起・史男父子の作品をはじめ、戦後日本を中心とする絵画、水彩、素描、版画、彫刻、陶芸、写真など約4,000点に及び、寺田氏の個の視点によるユニークさを特徴としながら、日本の戦後美術の広い範囲をカバーする包括性を備えるに至っています。この展示では、秋と冬の会期を通して寺田コレクションの中核をなす作家、作品、あるいは隠れた名品を紹介します。

奥山民枝《旦気》1996 photo: 斉藤新

同時開催：project N 100 富田正宣 Tomita Masanobu



つづれ織りのような大小の点の集積で描かれる富田正宣の抽象絵画。彼の制作行為は、美的な直観だけでなく、人間の行為や日々の営み、そして言語に対する独特の知的洞察に裏打ちされて進行しています。そのことで富田は、凝縮したマチエールと、存在としての強度、説得力を合わせ持つ一つの構造体を生み出すことに成功しています。

キュレーター：福土理

《掩蔽 / occultation》2022 photo: 岡野圭 ©Masanori Tomita, Courtesy of KAYOKOYUKI

2026年1月21日(水) - 3月29日(日) *58日間

アルフレド・ジャー (タイトル未定)

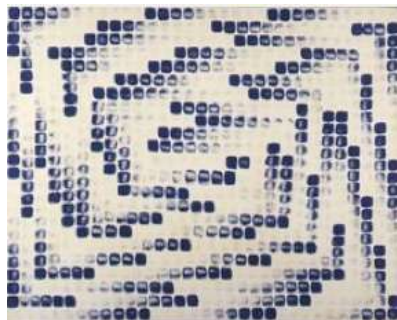


《A Logo for America》1987/2014 ©Alfredo Jaar

1956年にチリに生まれたジャーは、建築と映像制作を学んだのち、1982年に渡米、以後ニューヨークを拠点に活動しています。ジャーの制作は、社会の不均衡に対する真摯な調査にもとづき、多様なメディアに渡るその作品は五感に訴えかけるインスタレーションで知られています。誰かを糾弾するのではなく、誰もが幸せになる社会を希求する。ジャーの制作に通底するこの態度は、私たちはいかに共生できるのかという問いを力強く投げかけます。異なる価値観をもつ他者の存在を否定せず、一人一人がよく見て考える責任を負うこと。ジャーの姿勢と作品は高く評価され、国際的な賞を多数受賞しています。2018年にはヒロシマ賞を受賞し、2023年には広島市現代美術館で受賞記念展が開催されました。本展は、東京の美術館では初めての個展です。

キュレーター：野村しのぶ

同時開催：収蔵品展 085 寺田コレクション ハイライト 後期



李禹煥《点より》1978 photo: 斉藤新

前期同様、寺田コレクションの中核となる作家、作品、そのほか隠れた名品を紹介します。前期・後期で一部展示替えを予定しています。

同時開催：project N 101 岩崎奏波 Iwasaki Kanaha



《ちょうのいる部屋》2023

岩崎奏波は、日常で感じる違和感をきっかけに、見慣れたものが過去の記憶や離れた事物のイメージと結びついて異なるものに見えてくるという、自らの実感をもとに制作しています。作品はまるで神話や小説などの物語を表しているかのようで、その現実を越えた不思議な絵画は、鑑賞者の眼を惹きつけ絵画の中へと誘います。

キュレーター：福島直

■お問い合わせ 東京オペラシティ アートギャラリー 【広報】 市川靖子、吉田明子 Tel : 03-5353-0756 / Email : ag-press@toccf.com

東京オペラシティ アートギャラリー | 〒163-1403 東京都新宿区西新宿 3-20-2 tel: 03-5353-0756 fax: 03-5353-0776 e-mail: ag-press@toccf.com <https://www.operacity.jp/ag/>